

教育委員会主催シンポジウム 「数理・データサイエンス教育の発信と波及 ～モデルカリキュラム，eラーニング教材の活用」に代えて¹

日本数学会教育委員会では，上記タイトルの教育シンポジウムを，2020年3月の学会が中止となったことを受け，9月の学会での開催を目指して準備を進めておりましたが，開催に至ることができませんでした。

教育シンポジウムでは，教育にまつわるタイムリーな関心事に焦点を当てて，関係する方や精通する方にご講演いただき，意見交流を行うという基本姿勢をとっております。上記のシンポジウムも6拠点コンソーシアムのカリキュラム分科会が作成された「モデルカリキュラム・スキルセット」についての話題を含むもので，この2020年度内に開催するのが相応しいものでした。そこで，本来なら意見交流を伴うシンポジウムの形を取るのが相応しい話題ではありますが，時期的なことを考慮すると「数学通信」誌上で情報提供をお願いすることが現実的かつ実効的であると考え，シンポジウムに代えて，ご講演をお願いしていた4名の方々に原稿を依頼しました。

「モデルカリキュラム・スキルセット」の紹介に加え，大学における数学教育への影響，北海道大学での文理を問わず実践されている取り組み，eラーニングシステムの有効性など，大学で数学を指導する者にとっては有用な情報や，今後の大学・大学院教育や人材育成についてのメッセージも多く含まれております。さらにこの時期にご執筆いただいたことで，コロナ禍でのeラーニングシステムの活用事例についても触れていただけております。一人でも多くの方々に目を通していただければ幸いです。

最後になりましたが，今回，原稿を執筆していただいた方々には，その都度ご準備をお願いしたことで，大変なご負担をおかけしました。それにも関わらず，新型コロナウイルスへの対応で公私ともにご苦勞をなさっている中，原稿執筆にご協力いただいたことを衷心よりお礼申し上げます。

(教育委員会委員長 牛瀧文宏 記)

¹ 2020年度秋季総合分科会で予定していた教育シンポジウムの内容についての特集です。